

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター



高尾山のいきものたち

メジロ (メジロ科)



目の周りが白い黄緑の鳥。12cm程と小さく、上面が黄緑色、喉から胸は黄色、下面は白い。平地から山地の林、市街地の公園などで見られる。普段は木の葉に隠れて餌を探していることが多く、体色が緑なので木の中では天敵に見つかりにくい保護色になっている。

雑食で、昆虫やクモ、木の実、花の蜜、果汁、樹液などを食べ、早春にはウメなどの花に蜜を吸いにやってくる。甘い蜜は好物で、舐めて吸いやすいように、舌の先が筆のようになっている。また、蜜を目当てに花に顔を突っ込むと、顔や体に花粉がつき、受粉の手伝いをしている。ツバキのような冬に花咲く樹木にとっては、虫が少ない時期に花粉を運んでくれるありがたい存在だ。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)



NO.58

ロウソクゴケ (ロウソクゴケ科)

日当たりのよい岩上に着生していました。遠くからは黄色い塊が着いているように見えます。

ロウソクゴケにはコケと名前がついていますが、せんたいるい 蘚苔類のコケではなく菌類になります。

ちいるい 地衣類はそうるい 藻類を取り込んで共生して生活しているのが特徴です。地衣類の体を構成する菌類は藻類が作る光合成産物を栄養として利用します。一方で菌類は藻類にとっていわば、住処を提供し藻類を乾燥や紫外線から守っています。

地衣類の形態は、①葉状地衣類②樹枝状地衣類③固着地衣類に分けることができます。ロウソクゴケは葉状地衣類です。

中世のヨーロッパでは、祭典で使う黄色いロウソクをロウソクゴケで染めていたといわれています。今回同じようにロウソクを染めてみました。黄色いロウソクゴケの色がよく染まりました。(富)



岩に着生したロウソクゴケ



拡大写真



ロウソクゴケで染めた黄色いロウソク

令和3年度 森林カレッジ受講生募集

高尾山で自然とふれあいながら森林・林業について学んでみませんか。

【カレッジⅠ】

日程 令和3年5月15日(土)
内容 講義「森林の見方」
体験 森林散策
講師 一般社団法人森林・自然環境儀者教育会長
桜井 尚武 氏



募集人員

30人
応募者多数の場合は抽選とします。

対象者

森林・林業に興味があり、18歳以上70歳未満の健康で急傾斜地での作業や山歩きが可能な方。

申込方法

往復ハガキに、①住所、②氏名(ふりがなを入れる)、③年齢、④職業、⑤電話番号(自宅と携帯電話)を記入のうえ高尾森林ふれあい推進センター「森林カレッジ係」までお申込ください。

申込締切日

令和3年4月19日(月) 必着

参加費

傷害保険料として300円(年間保険料)程度負担いただきます。

※新型コロナウイルス感染症等の状況により日程及び内容について変更又は中止とする場合があります。

ご理解の上お申し込み下さい。

【カレッジⅡ】

日程 令和3年7月3日(土)
内容 講義「森に学ぶ～森づくりことづくりひとづくり」
体験 下草刈り作業
講師 東京農業大学教授 宮林 茂幸 氏



【カレッジⅢ】

日程 令和3年10月9日(土)
内容 講義「木の成長としくみ」
※講義のみとなります
講師 元多摩森林科学園園長 三輪 雄四郎 氏



【カレッジⅣ】

日程 令和4年1月15日(土)
内容 講義「森林の恵みと共に炭焼き、そして森林の香り」
体験 炭焼き作業
講師 東京大学名誉教授 谷田貝 光克 氏



お問合せ先

関東森林管理局
高尾森林ふれあい推進センター
〒193-0844
東京都八王子市高尾2438-1
電話 042-663-6689
FAX 042-663-7229

ホームページ <http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>

出前森林教室 八王子市立 上川口小学校

2月18日(木)と19日(金)に、八王子市立上川口小学校5年生13名の森林教室を実施しました。上川口小学校では、学校の裏山にある竹林から生徒が切り倒し、炭焼き用に準備した竹を材料に毎年炭焼き体験を行っています。1日目は、炭焼きについて職員から説明を受けた後、2班に分かれて炭焼きの準備を開始。窯の準備が整うと焚き口から団扇でかわるがわる熱風を送り込み、煙突から煙が上がると大喜びし作業に夢中になっていました。作業開始から1時間弱で燃焼が安定したところで炭焼き作業は一端休止し、場所を教室に移し森林の働き等について学習を行い午前中は終了。午後は、花炭作りを体験し、窯締め間近の煙を見ながら1日目を終了しました。

2日目は、窯出しです。焼き上がりを心配しながら窯の中を覗くときれいに仕上がっており職員は一

安心し、児童は大喜び。思いのほかたくさんできあがった炭を、用意した段ボール箱に丁寧に納めていました。なかなかできない体験に児童達は満足した様子で、見学されていた校長先生からは、感謝の言葉と今後も是非続けていきたいとの言葉をいただき、今年の炭焼きも無事終了となりました。(谷)



交替しながら窯に竹を並べます



上々のできあがりとなりました！

森林教室 立川市立 大山小学校

霜柱も立つような2月12日(金)の寒い朝、立川市立大山小学校5年生45人は、バスを降りて20分ほどの道のりを皆元気よく歩いて日影沢キャンプ場の管理棟に到着。当日のプログラムは、午前中4班に分かれての森林観察、午後は管理棟内での森林学習と丸太切りです。

この時期、花や葉が少ないので観察の素材探しには苦労しますが、「何日も雨が降っていないのにこの沢の水が枯れないのはなぜだろう?」「このコンクリートのダムは何のために作ったと思う?」「このスギの人工林はあちらに見える天然林とどこがどのように違うかな?」といった質問を矢継ぎ早にすると、皆我先にと答えてくれます。中には珍回答もありますが、教室だけではなく現地で木や森、施設などを見たり触れたりしながら色々考えてもらうことが大事だと思います。このほか五感を使って、レ

モンエゴマの香り、スギの枯れ葉を燃やしたときの匂い、タゴガエルの鳴き声、ニガキの皮の味、ノブキの実のネパネバ、アオキの葉の草笛、生の丸太の重さなどを体感してもらいました。(枝)



治山ダムの働きについても説明します



上手に切れるかな?

森林・林業技術等交流 発表会に参加 (Web)

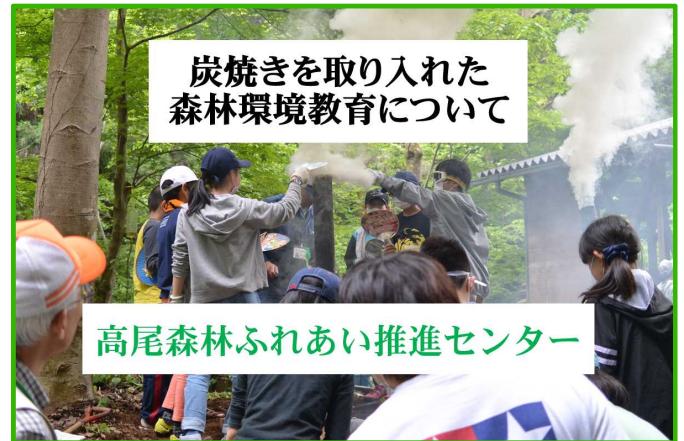
今年度も、森林・林業技術等交流発表会が2月16日～17日に開催されました。今年の特徴として、コロナウイルス感染症対策のため、Webによる開催 (YouTube) となりました。昭和生まれのアナログ世代の私にとっては、デジタル化へ進化する絶好の機会となりました。

今年度は、おそらく当センター以外では実施されていないと思われる「炭焼き体験」についての発表を行いました。当センターでは、「地球温暖化の防止」という観点から「炭焼き体験」を森林環境教育の一方法として取り入れているところです。

炭の原材料の木材は、光合成により二酸化炭素を植物に固定して酸素を排出するため、化石燃料の大量消費に比べてみるとリサイクル出来る貴重な資源

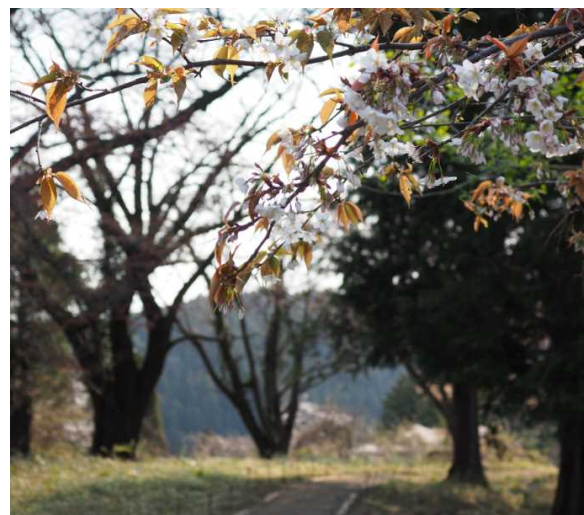
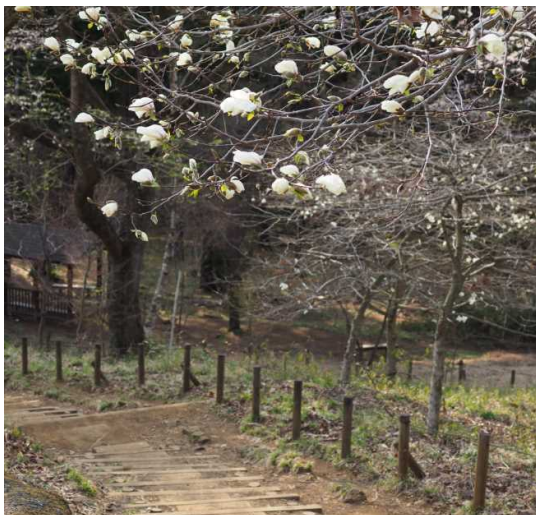
であることを、体験する中でレクチャーしています。もちろん炭焼きだけで温暖化の解決にはつながりませんが、森林環境教育としては好材料ではないでしょうか。

今年度も受賞は逃してしまいましたが、今後も様々な題材を用いて森林環境教育を推進していこうと思います。(磯)



Webによる発表となりました。

今年は、昨年よりも花々の開花が早いようです。写真は昨年(2021年)の4月7日のものですが、今春はもう少し早い時期にこのような景色に出会えるかもしれません。



山頂から小仏城山へ向かう歩道沿いのコブシとサクラ

編集後記

高尾山の麓では、キクザキイチゲが少しずつ咲き始めています。本格的に咲くのはこれからですが、見ていると寒さを忘れず。

キクザキイチゲ



Forest通信 NO.385

発行：林野庁関東森林管理局

高尾森林ふれあい推進センター

ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先
高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>

